

# 茨城県の観光政策と現状

氏名：加藤木ちさと

本稿の目的は、コロナウイルスが感染緩和し、インバウンドの需要も増え、茨城県の観光旅行者も増加傾向であるが、茨城県の観光の魅力は最大限伝わっていないことから、茨城県の観光の魅力をあげるためにはどのような取り組みが必要か問いを立てた。そしてそのためには、自動車以外の二次交通の確保、二次交通・観光資源のある場所付近の宿泊施設や現地移動中に立ち寄れるエリアに観光施設を重点的に充実させることが、観光促進に繋がると仮説を立て証明した。

研究方法は、筆者が8月15日に茨城県庁の茨城県営業戦略部観光戦略課にヒアリング調査を行い、茨城県の観光政策の現状を調査した。他県との比較を交えて、茨城県の課題を明確化、そして、解決策を提示することにした。

二次交通では、スポーツツーリズムやガーデン&オーチャードツーリズムを推奨するにあたって交通手段に自転車を取り入れていた。これにより、サイクリングの需要を利用し観光目的とすることができるとともに、庭園や公園、果樹園といった立地の悪い観光地に対しても行きやすくなる手段であることが分かった。

観光地周辺の観光促進・宿泊施設の充実では、特に都心や空港から近い立地にある土浦市では、サイクリングロードやサイクリングにちなんだ宿泊施設、商業施設を駅直結で設立するといった取り組みが行われていた。土浦市の観光客数も増加していることから効果的な手段であることが分かった。更に、茨城デスティネーションキャンペーンの一環として、キャンプやグランピングなどのアクティビティを交えた宿泊施設の充実を図っていた。実際に観光目的にキャンプなどを含むアクティビティが2位となっていることから観光客集客に効果的であることが分かった。観光地間の観光促進では道の駅が有効であることが分かった。茨城県全体に道の駅が点在しており、観光移動中に立ち寄れるようになっていた。また、道の駅かさまのモンブランは茨城県のグルメとして知名度が上がっていることから、地元グルメを提供する道の駅は、茨城県のフードツーリズムに有効であることが分かった。

以上のことから、茨城県、自動車以外の二次交通の確保、二次交通・観光資源のある場所付近の宿泊施設や、現地移動中に立ち寄れるエリアに観光施設を重点的に充実させることで観光促進に繋がることが明らかとなった。